

全小 五 国

昭和四十一年度全国小学校学力調査問題

第五学年国語

小学校

第五学年

組

番

なまえ

(第3ページにもなまえを書きなさい。)

注 意

- (1) つくえの上には、えんぴつ、消しゴム、下じき以外の物はおかないようにしなさい。
- (2) えんぴつや消しゴムなどを、かりたり、かしたりしてはいけません。
- (3) 時間は四十五分で、答えを書くとこの数はぜんぶで三十あります。答えの  の左下につけてある①、②、③などは、はじめからかぞえて何番めにあたるかをしめしたものです。
- (4) 答えは、問いをよく読んで、かならず問題の下にある  の中に書きなさい。
- (5) 先生の「始め」といいうあいすで始め、「やめ」といいうあいすですぐやめなさい。
- (6) いんまつが悪くて、字のはっきりしないところがあったら、だまつて手をあげなさい。
- (7) 答えは、はつきりと書きなさい。答えをなおすときは、きれいに消してから書きなさい。
- (8) むずかしい問題があったり、答えがわからなかったりしたときは、できるものから先にやりなさい。
- (9) ひととおり終わって、時間があつたらよく見なおしなさい。

得 点

(見直しはできないこと)

① つぎの文章を読んで、あとの一から七までの問いに答えなさい。答えは、それぞれの問いについて、1、2、3、4の中から、いちばんよいものをつだけえらんで、その番号を、 の中に書きなさい。

① 鳥の中には、ツバメのように春や夏のは見られるが、秋や冬にかけては見られないものがある。また、ほんたいに、ガンのように、秋から冬にかけて日本にわたってくる鳥もある。ツバメやガンのように、遠くのほうからやってきて、また、遠くのほうへ帰っていく鳥ばかりではなく、たとえば、モズのように、秋になると平野へおりてきて、春や夏は山の中にすんでいる鳥もある。このように、季節のうつり変わりによつて、鳥たちがすみ場所を変えることを、鳥の「渡り」という。

② 鳥が「渡り」をする時刻はいつごろであろうか。たとえば、大形のカモ、ガン、コウノトリ、ハクチョウなどのようなもの、また、力の強いタカなどは、昼間でも「渡り」をおこなう。、小鳥の類は、たいいてい夜間にむれをつくつてわたる。

③ わたしたちが朝早く野外に出てみると、前日の夕方まではぜんぜん見なかった小鳥のむれを見ることがある。これは、前のほんのうちによそからやってきた鳥たちである。

④ では、小鳥たちはなぜ、そのように夜わたつていくのであろうか。また、鳥の目は夜になると見えなといわれているが、もし見えないとすれば、かれらは、夜空にめくら旅をしているのであろうか。

⑤ ふだんは、林や森の間にかくれて生活している小鳥たちは、夜のやみにかくれて安全に「渡り」をしようとするのである。一つには、夜のやみがかれらをさそうしい敵から守ってくれるからである。たとえば、小鳥たちをおそろしうタカなどは、夜はねむつている。つぎに、もつとたいいせつなことは、かれらは昼間はえさを求めなければならぬということがある。

⑥ わたしたちが少し気をつけて見ればわかることであるが、網つているカナリヤとか、シジュウカラとかいうような、からだの小さい鳥は、かごの中で、たえずえさを食べている。ほとんど食べとおしのようになり、食べない。小鳥たちは、たえず食べていなくては、かれらの命をつなぐことができないのである。もし、こんな小鳥たちが長い旅行をするのに、昼間飛びつづけていては、かれらの胃はたちまちからになつて、もう旅行をつづける元気がなくなつてしまふにちがいない。そして、夜になつてしまえば、かれらはえさをさがすことはできない。

⑦ そこで、夜は密敵の目にふれずに飛びつづけて、昼間は太陽の光にめぐまれてやすみ、えさを求めて安全なところにとどまるのであろう。

⑧ いっぱんに、鳥の目は夜は見えないと思われている。人間にも夜になるとほとんど見えなくなる目の病気があつて、これを「夜盲」といっているくらいである。ところが、鳥たちの目は、夜になるとぜんぜん見えなくなるかというところ、けつしてそうではない。昼間のように見えないにしても、かれらは、少しの光線があればあるていど見えるのである。

① この文章の中の [ ] の中に入れることはとしては、つぎのどれがよいですか。

- 1 たたとえば
- 2 ところろが
- 3 あるいは
- 4 つまり

② この文章の中に もっとたいせいつなことは、とあります。他にくらべてたいせつなのですか。

- 1 小鳥たちをおそろしカなどが、夜ねむっていること
- 2 ふだんは、林や森の間にかくれて生活していること
- 3 夜のみが、おそろしい敵から守ってくれること
- 4 夜空にめくらの旅をしようとする事

③ この文章の中の⑥の部分、全体としてどんなこととを言っているのですか。

- 1 小鳥は、なぜ昼間はえさを食べなければならぬかという事
- 2 餌<sup>か</sup>っている小鳥は、なぜ食べどおしにえさを食べるかという事
- 3 長い旅行をすると、胃はたちまちからなくなってしまおうという事
- 4 気をつけてみれば、鳥のえさを食べるようすがわかるという事

三の答え [ ] ③      二の答え [ ] ②      一の答え [ ] ①

④ この文章の中で、①の部分は、どんなはたらきをしていますか。

- 1 ツバメとガンはそれぞれ住む場所ががらうことを説明するはたらき
- 2 鳥の「渡り」ということの意味を知らせるはたらき
- 3 モズはツバメやガンのように長い旅ができないことを知らせるはたらき
- 4 季節が変わるとすべての鳥はすむ場所を変えることを説明するはたらき

⑤ この文章を書いた人は、小鳥の「渡り」についておもにどんなことを説明しようとしているのですか。

- 1 小鳥が、昼間はえさを求めるわけ
- 2 小鳥の目が、夜はあまり見えないわけ
- 3 小鳥が、夜、「渡り」をするわけ
- 4 小鳥が、安全に「渡り」をするわけ

⑥ この文章で説明しようとしていることをよくあらわす題をつけたいと思います。つぎのうちからえらぶとすれば、どれがよいですか。

- 1 「渡り」の時刻
- 2 鳥の旅と鳥目
- 3 小鳥のむれ
- 4 鳥と光線

⑦ 小鳥たちは、なぜ、そのように夜わたっていくのであろうか。という文に対する説明をしているのは、つぎのどれですか。

- 1 ④と⑥と⑦の部分
- 2 ①と⑦と⑧の部分
- 3 ⑤と⑥と⑦の部分
- 4 ⑥と⑦と⑧の部分

四の答え [ ] ④      五の答え [ ] ⑤      六の答え [ ] ⑥      七の答え [ ] ⑦

③

つぎの文章を読んで、あとの一から六までの問いに答えなさい。答えは、それぞれの問いについて、1, 2, 3, 4の中から、いちばんよいものを一つだけえらんで、その番号を、答えの [ ] の中に書きなさい。

庭に一本のなしの木がありました。このなしの実は、水気が少なく、のみこむとむねがつまりそうでした。それで、わたしたちは、このなしのことを「むねつまりなし」と呼んでいたのです。

わたしが、六年生の年の秋のことでした。母は、にわかにかからだが弱くなり、まもなく町の病院に入院しました。

つぎの日も、そのつぎの日も、母はもどってきませんでした。家の中はひっそりかんとして、なんだか風がふきこむおそろしうで、へやの中にいる気持ちもしれません。わたしは、弟となるべく外で遊んで、気をまぎらわしていました。

ある日のことでした。落ち葉のしきつめた家のまわりや、庭のあちこちを、わたしが「お音をきかせる音がなにかが歩きました。すずか、すずか、すずか、このさくの花、かあさんのこころに持つていくか。」と、目をかがやかして、白きくをおりました。わたしは、なしの木に登って、「むねつまりなしの実はおいしいです。かごに入れました。そして、ふたりは、病院にでかけました。

家から町に出るまで三キロメートルほどもあり、町へはいってから病院まで、また二キロメートルもあるのです。ふたりは、いいかげんつ

かれました。

やっと、大きな木のそばにある病院に着きました。おしえられたところを、ふたりは走るように行くと、へやの入り口には、母の名が書かれてありました。ドアをおしあけて中をのぞくと、母はベッドの上になすわつたままうつむいていました。まくらもとだ、父がこしかけていました。母は顔をあげてこちらを見て、何か言おうとしましたが、タオルでちよつと目をふきました。母の顔を見た

たら、わたしは、のどがつかえました。弟は、持つてきたさくの花を母のはな先にさし出しました。「お音、お音の音を持つてきてくれたのね。」

母は、においをかべようらしく花をさかかえしました。父は、へやのすみにあつた花びんに水をそそぎ、それへきくを入れました。母は、わたしのからさげていたかごを見つけて、言いました。「おまきの持つているのは、なすだね。」

わたしは、だまって母の前にかごをひっくりかえしました。「むねつまりなし」がこころにどこがかりだしました。「おま、おま、おま、このおまには、母も庭をたててわらいました。父もわらいました。母は手をのばして、その二つを手にとつてはあたしくつづけ、

「お持のいのこ、ひやひやして。――」母はおおは、うすべにをなしたようにほほって、きれいな見えました。

① この文章の中の [ ] の意味は、つぎのどれですか。  
1 わけもなく      2 すっかり  
3 すこしずつ      4 きゅうかた

一の答え [ ] ①

1 次の文章を読んで、あとの1、2、3、4の間に答えなさい。答えは、ア、イ、ウ、エ、オの中から、最も適当なもの一つずつ選んで、解答用紙のその記号を○で囲みなさい。

① 時代は、活字文化からラジオやテレビジョンなどの電波文化へと移り変わりつつあるのではないかとということがいわれている。だから、書物にとりかこまれた生活というよりなものは、今日では、ごく特殊な職業に限られ、一般には時代おくれになっていくのだともいわれるだろう。いわゆる後進国では、交通もごく旧式な馬車や牛車の類と、ごく最新式の航空機とがあるだけで、その中間のものがあまり見られないという話であるが、いわゆるコミュニケーション(伝達)の手段としても、活字よりも電波にたよるほうが多いとも聞いている。いわゆる活字文化、あるいは文字文化というものは、中間的、過渡的なものにすぎないだろうか。私たちは、ときどきそのような疑問にとらわれる。

② 昔は文字を固におかないで、口から口へとニュースが伝えられた。マラソン競走の起こりは、ペルシア戦争のときに、マラトンの勝利を伝えるための使者、あるいは伝令の者が現地から走ってきて、これをアテネ市民に伝えたところからきているなどといわれる。議会でも法廷でも、人々は演説や弁論によって、自分の考えを直接的に市民に訴えて、これを説得しなければならなかった。外交交渉でも、時によると、巧みな雄弁によって、その時その時の方針が急変させられて、とんでもない結果を招くこともあった。私たちは、口と耳をつなぐだけのコミュニケーションが、しばしば感情的な要素によって支配されることを見るのである。

③ そのような弊害を少なくするためには、文字の媒介が有効であると考

えられる。記録をとり、合意されたことがらについては、文書をつくっておけば、時によって矛盾したことを平気でしゃべるような、場当たり的な演説家を沈黙させることもできる。くもし、私たちが、各種提案の内容や理由づけについて、あらかじめ文書にされたものを渡されているなら、これを何度も読みなおして、じゅうぶんその趣旨を理解し、これにいろいろな方面から検討を加える余裕もできるわけである。だから、電波時代の到来によって、また昔の直接的な訴えが可能になってきたといっても、その危険や短所に対抗するものとして、活字その他の文字の役割もますますたいせつになってきているといわなければならぬだろう。

④ 文字の発明ということは、人類の歴史にとっても画期的なできごとだった。それによって文字も可能になり、抽象的な思考も発達してきたのである。口演だけにたよった物語や歌謡も、その台本が文字によって固定され、その楽譜が一定されることによって、より高度の発達が可能になったのではないかと思う。だから、私たちは文字文化をより簡単に飛び越えてしまうこともできない。教育的には、文字に慣れ、文字を使う訓練というものが、その間接性によって反省も可能になるところから、人間形成の上にも、きわめてたいせつであるといわなければならぬだろう。

⑤ ただし、耳で聞き、口でしゃべることばの                      性は、段階としては最初のものであり、そのいきいきとした働きかけは、文字におきかえてしまうことのできないものをもっている。いわゆる電波文化の時代が文字文化を押しつけてしまうのではなく、その土台の上にも、どのような新しい可能性を開拓していくか、それがこれからの課題であろう。

1 段落①では、どのように論をすすめているか。

ア いわゆる先進国と後進国とにおけるコミュニケーションの手段の違いを、まず具体例をあげて述べ、次になぜそう違うのだろうかという疑問を提出している。

イ 活字文化とラジオやテレビジョンなどの電波文化との比較を述べ、次に後者は中間的、過渡的なものにすぎないのではないかと疑問を提出している。

ウ 文字文化というものは中間的、過渡的なものにすぎないという例をあげ、次に後進国が活字よりも電波にたよるほうが多いのかという疑問を提出している。

エ 活字文化はラジオやテレビジョンなどの電波文化に比べて時代おくれだという一部の人の意見を紹介し、次に活字文化がさかんである現状に対する疑問を提出している。

オ 時代は電波文化に移り変わりつつあるといわれていることとそう思われそうな例をあげ、次に文字文化は中間的、過渡的なものかどうかという疑問を提出している。

2 段落②のくのところを、補うことのできることをとして、次のどれがよいか。

- ア また イ しかし ウ たとえ エ すなわち  
オ それとも

①

3 段落②、③、④の部分に書かれていることが、次の中に一つある。それは、どれか。

ア 昔のコミュニケーションは、口から口へ伝えるという、中間的、過渡的な手段によって行なわれていた。

イ 直接的な訴えによるコミュニケーションは、ややもすると感情的な要素によって支配されることもある。

ウ 電波時代の到来によって、活字その他の文字の役割がそれほど重要視されなくなってきた。

エ 私たちは、口と耳をつなぐだけのコミュニケーションによって、簡単に文字文化を飛び越えることができる。

オ 抽象的な思考が発達してきたために、物語や歌謡が生まれるようになり、それが文字の発明の上にも大いに役だった。

④

4 段落⑤の                      に入れるものとして、次のどれがよいか。

- ア 中間  
イ 固定  
ウ 矛盾  
エ 直接  
オ 間接